

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 8 月 21 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491700096		
法人名	株式会社ディア・レスト福山		
事業所名	グループホーム松花園		
所在地	広島県府中市上下町上下851番1		
	電話番号	0847-62-8322	
自己評価作成日	2020年2月15日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 8 月 31 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 2 年 8 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

職員一同が企業理念である「ひとにやさしい介護を目指して」の実現に向けて取り組みながら、入居者様の安全、そして、安心して生活していただけるようにスタッフ皆で一致団結して頑張っています。また、医療機関との連携により、入居者様がいつまでも健康で、その人らしく、穏やかに、笑顔で過ごしていただけるように努めています。入居者様も気軽に園庭散歩や、園外の散歩・ドライブ・買い物など気分転換ができる施設です。ご家族様にも入居者様の日頃の生活が見えるよう、広報誌・写真・手紙などを請求書などと一緒に送らせていただき、安心していただけるように努めております。また、今年度より、インドネシアから技能実習生2名も仲間に加わり、スタッフも充実し入居者様への寄り添う介護に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

町の中心地にあり、上下駅も近く、協力医療機関、商店も周辺にあり利便性が良い。すぐ横には、コンビニもある。希望があれば周辺の商店へ買い物に出かけたり、町並みの色んなイベント(白壁祭り、お雛祭り等)に参加でき、馴染みの人と出会う機会や昔の思い出をたどる事もできる恵まれた環境である。広大な敷地に和風建築の大きな建物、室内も木のぬくもりを感じ、昔ながらの暖炉もあり、違和感なく穏やかに過ごす事ができ、お庭も広く、自由に散歩を楽しまれている。天気の良い日には、朝食後玄関先で外気に触れる機会を持たれていると共に室内での催しやボランティアの訪問も多く、楽しんでもらっている。また、四季の外出にも出かけ、気晴らし、五感刺激、思い出づくりに繋げられ、その時々様子をホーム便りや個々の写真をDVDにまとめたものを、全家族に郵送し、日頃の様子を把握してもらっている。家族会も定期的を実施し、家族との信頼関係を築くよう努めている。健康面に於いても複数の看護師の職員が常駐している為、日々の健康管理も適切に行われ、安心であると共に協力医療機関との連携も構築されている。地域との関わりも民生委員や町内会長等の協力も得られ、運営推進会議も有意義なものとなっている。理念にある優しい介護を目指し、利用者本位の生活ができる様、全職員がブレの無い支援を心掛け、寄り添い、思いを汲み取り、一日を大切に過ごしてもらえるよう、日々職員間で話し合い、より良い介護ができる様一丸となり取り組まれ、地域に開かれた事業所となっている。

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人にやさしい介護・住み慣れた町で地域の人たちと触れ合いながら安心して生活していただく事ができるように努めています。施設への面会や、地域行事への参加を積極的に行い、地域内外のボランティアの人たちの協力も頂いております。	事務所や各ユニットに掲示し、見ることにより、振り返る機会と、反省、また、原点に戻る事が出来る。企業理念や行動目標を全職員が理解し、共有しながら、実践に繋げる様周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気候の良い時期には、園庭や、商店街への散歩、ドライブ等積極的に行っています。上下町の祭りなどの行事にはすべて参加し、希望者の方には上下町の桜を見に行ったり、甲山の農園に花を見に行ったりしています。	地域行事やボランティアの受け入れ等積極的にされると共に町並みを散歩し、近隣の方と出会えば挨拶され、顔見知りの関係を築き、地域資源の活用に繋がられている。民生委員や町内会長等の協力も多く得られ、色んなイベントにも参加し、地域の一員として交流され、今では地域の方の相談を受ける等地域貢献もされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北市民病院祭りで祭りに参加させてもらい事業所の紹介をさせて頂いたり、今年度は、府中市の認知症の人にやさしい街づくりのイベントで、松花園のスタッフに発表をしてもらいました。施設見学者や、家での介護で困っておられる人の話を聞くこともあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課・民生委員・町内会長・消防団・家族様・ディア・レスト(施設長・ケアマネ)に参加していただき、施設内での行事、地域行事への参加報告、入居状況の報告などしております。	家族代表、民生委員、町内会長、消防団の方、行政等の参加の下、現状や取り組み等を詳細にわたり報告し、意見交換の場とされ、立場の違う方々の要望や意見が得られ、サービスに活かしている。日々の様子は毎月のホーム便りを見てもらい、理解してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことや、困ったときには府中市の介護保険課に相談に言っています。地域ケア会議・地元の施設・病院・市の担当者の集まる会議にも参加して意見交換をしています。今年度も北市民病院の祭りに参加し、市の職員・保険センター・病院のスタッフや、他施設のスタッフとも交	運営推進会議への参加があり現状については理解が得られている。疑問点や困難事例等があれば相談し、助言等が得られている。地域ケア会議にも参加し意見交換や情報等も得られていると共に市民病院のお祭りにも出向き行政職員等の交流も多くあり、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待拘束委員会を3か月に1回開催し、松花園でのミーティングでも周知いたしております。夜9時～朝5時までの施錠はしております。園外にも自由に入出入りしてもらい、見守りの必要な入居者様には、職員が付き添いをしています。	基本身体拘束はしない方針である。自由にお庭を散歩されている。常に見守りを徹底し、行動を制止せず、ユニット間も自由に出入りされ、日々抑圧しない支援を心掛けている。研修も定期的に行い全職員、正しく理解していると共に拘束委員会も3ヶ月毎に実施し、話し合いを持ちながら拘束廃止に向け取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ディア・レストの身体拘束等適正化のための指針も参考に勉強をしています。虐待拘束委員会では、スタッフ間の何気ない言葉使いの中にも気を付けていく必要があることなど、スタッフ間のストレスから虐待に繋がってしまう恐れがあることなども注意しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を活用されておられる方がいました。最近では、該当する方もおられず、管理者を含めスタッフも勉強していません。そのような機械のある場合には、会社の詳しい担当者に手続きの相談をすることになると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、申し込みに来ておられるので、その時に施設見学や、家族様からの質問、入居に関しての条件や必要物品についての説明をしています。入居時にも、入居に当たっての各事業所や市町村への手続きなどの説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、要望のある人はスタッフに伝えてくれています。家族様は、面会時や、運営会議の席で要望をお伺いすることができていると思います。家族様から外部へは、契約書に市町村・施設窓口についての説明はしています。要望があった場合には、申し送りノートでの共有をして	訪問時や家族会、運営推進会議等で聞く機会を持っている。電話等でも思いがあれば気軽に言われる。信頼関係を築き何でも相談できる雰囲気づくりに努めている。毎月ホーム便りと個々の写真、日頃の様子をDVDに治めた物と一緒に送付し把握してもらっている。色んな場面での意見等は個々に対応し、反映もさせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できるかぎり、スタッフ中心を心掛けており、現場でのことや入居者様への対応などはスタッフたちで決め、報告をしてもらっています。入居者様の負担が減るような介護・手伝いを心掛けて業務の変更など考えてくれています。	日頃気付きがあれば聞いていると共にミーティングでも多くの意見や提案が出る。案件によっては皆で検討し、反映させる様務めている。意見や提案が気軽に出しやすい職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	松花園でできる範囲内のことは努力して働きやすい環境になるように努めています。特に新人のスタッフが職場になじめるようにコミュニケーションをとるように気をつけています。時間外等発生する場合には、不満につながらないように対応するように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村や、北市民病院・町内施設の研修の情報を掲示板に貼り、スタッフが参加できる環境づくりに努めています。OJTに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上下の施設は、管理者やケアマネの交流の機会は多くありますが、スタッフ間の交流は限られてきます。研修などで一緒になることはありますが、施設間の交流まではしていません。他の施設の人材不足も影響しているのでは・・・		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や、施設からの情報をもとに、スタッフと情報の共有をしております。現場サイドでも、常に新しい情報があればスタッフ間の共有をし、入居様が安心して生活していただけるように家族様とのコミュニケーションも図ってくれています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たってのご家族様の不安点や、入居様の要望、家族様の施設で生活するにあたっての要望を聞き取りできるだけ対応しています。お出かけ希望や、買い物の付き添いなどもしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご本人様の希望をできるだけ聞き出し、スタッフ間で共有し施設での生活に取り入れています。他のサービス利用は、福祉用具関係や、地域の体操の集まりなどには参加しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	松花園を入居者様・スタッフの家だと思い、家族のような関係を目指しています。入居者様にも、思っていることを遠慮なく言っていただける関係づくりに努めています。また、食レク時には入居者様の希望を聞き対応したり、カラオケレクなどでは、先頭に立ち準備をしてくれている入居者様		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあるごとに家族様への連絡を取るようになっています。病院などにも付き添いのできる場合には、家族様に対応していただく事もあります。施設行事の参加・外泊外出などのできるだけ進めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方が何度も面会に来やすいような環境づくりにも力を入れています。地域のボランティア様、顔なじみのボランティア様にも来園していただき交流の場を作っています。入居者様何名かで実家へ行き、庭で果実などの採取もしています。	家族、親せき、友人、また、自宅近くの方等の訪問がある。馴染みの理容院や美容院を利用されたり、定期的に自宅に帰る方、馴染みのお店へ買い物に行かれる等、又、初詣も自宅近くの神社へお連れする等、馴染みの人や場との関係が継続できる様柔軟な支援を心掛けています。お正月には外泊や日帰りもされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様間の人間関係などの含め、リビングの席なども決めております。レクの時の席順、ドライブや散歩なども、気の合う人とでか		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は入居者様がお亡くなりになったときなので、県外におられる方との交流はなくなりますが、地元の方などは、病院などで、出会った時などにも、居室の空き状況を聞かれたり、入居の申し込みもされる家族様もおられます。付き合いは続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるかぎり本人の希望に沿うように努力しています。生活の場で必要なものは、本人様が家で生活をされていたように不都合のないよう、家族対応ではなく、施設ですぐに対応しています。金額的に高額な場合には、家族の許可を頂き対応しています。	日頃の会話、利用者同士の話しから把握する事もあり、自宅に帰りたい、買いたい物の希望等、又、食べ物、外出等の要望なども多く出る。出来るだけ思いに沿う様支援している。また、希望で携帯を持たれ、自由に電話もしてもらっている。何も言えない方は生活歴や選択肢を出しその時の表情から本人本位に検討している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様や担当ケアマネからできるだけ情報を聞き取り、把握に努めている。また、面会時にも入居前の情報以外のことを聞き出すことができていると思う。現在の入居者様に合ったケアができていると思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のかかわりの中で、日々の体調の変化など、申し送りでの共有できている。日常生活の中での役割を作り手先の仕事など手伝ってもらっています。ADLの低下を防ぐように気を付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様、本人様の希望また、毎日のかかわりを持っているスタッフからの情報をもとに、介護計画を作成しています。	家族や本人の要望、主治医、看護師の所見、業務日誌から課題やニーズについて職員の意見等を基に担当者会議で検討し、柔軟且つ現状に即した計画を作成している。モニタリングは毎月、見直しは半年としている。家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果・気づきの記録ができている。日々気付いたことなども、申し送りができていおり、共有できているとばもう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎり入居者様のニーズに合うようにまた、他の施設ではしていないことをするように心がけています。必要なものがあれば、家族様に任せるのではなく、こちらですぐに用意するようにしています。家で生活されていた時と同じような環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の様々なボランティア様に協力していただいています。また、地域の行事や、体操などへの参加、季節ごとの楽しみなど、お出かけをして楽しんでもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による施設での往診・家族様の希望されている病院への受診・希望される医療を受けられるように支援している。また、本人様からの希望時には、家族様とも相談をして、病院の受診に繋げている。	協力医療機関の往診が毎週ある。歯科や他科については通院支援は事業所が対応し、希望のかかりつけ医は基本家族対応であるが、要望があれば事業所が柔軟に通院支援している。看護師の職員が複数名いる為、日々の健康管理ができていて、安心である。結果も家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に日々の気付きの報告、入居者様本人からの相談など気軽に聞くことができる環境にあると思います。現在4名の看護職員が介護職員と協力して頑張ってくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	北市民病院の相談員とも連絡を取りながら、入退院の情報共有に努めている。また、入院時にも、ほとんど毎日お見舞いに行き、体調の確認や、退院の情報など病院看護職から頂けるように努めている。松花園の往診時にもドクターから情報を常に聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、重度化した場合のご家族様の意思確認用紙に記入をしていただいています。年に1度の家族様、ドクター参加のカンファでも重度化した場合の対応をお伺いしています。また、終末期が近づいた場合にも家族様に来園いただき、今後のリスクなど、ドクターからの説明をしていただいています。	指針を基に利用開始時に説明をし、理解が得られているが、重度化した場合は、家族、主治医等三者で話し合い、日々の状況を見ながら、その都度、家族に意向の確認を行い、主治医との連携を密に取りながら、家族の協力を得ながら、方針を共有し、チームで支援に取り組まれている。看護師の職員が常に常駐している為、適切な対応ができています。看取り体験もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、ドクターからの指示で救急車は呼ばず、車対応をするようにいられています。そのほか、会議にて緊急時の連絡方法などの話もしています。常に看護師が勤務しているので安心です。また、看護師のいない夜間の連絡方法も決めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の協力は頂いています。災害時には、町内会長、消防団の協力も頂くようになっております。スタッフ間の連絡網で、スタッフも集まれるようになっている。火災時のルールもできている。	年2回、消防署指導1回、自主1回、夜間想定で、通報、消火、避難誘導等の訓練を実施している。市の大会にも参加し、実践力を身につける様取り組まれている。運営推進会議等でも訓練状況を報告し、助言を得ながら、協力の依頼もされ、地域との協力体制強化に繋げる様務めている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてスタッフも心掛けて対応をしています。入居者様の個人のスペースに立ち入る際の声掛けや、居室入退室の際のノックの徹底にも気を付けております。また、否定をしないかわかりをしています。	利用者の生活歴や性格を把握し、その人にあった声かけや対応をする様、朝礼等で周知すると共に、個々の尊厳を大切に人生の先輩であると言う事を意識しながら支援する様務め、馴れ合いになっても節度ある対応を心掛けている。気付いた時には職員間で注意し合い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に寄り添い、コミュニケーションをとり、人間関係を作り、思いや希望を言いやすい環境のなるように関わっています。希望もできる限り早い対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のADLが低下しないように、できる限り本人様の希望に添えるようにしています。入浴時間もそうですが、買い物の出かけたり、その方の地元ドライブに出かけたりすることもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院や、床屋の希望者は現在6名おられ、送迎にて対応しています。それ以外の入居者様は、施設に来てくださる美容師さんに対応していただいております。また、化粧をされる入居者様もおられ、化粧品屋への買い物にも付き添いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園レベルの野菜を作り、収穫をしていただいています。入居者様のお誕生日時には、希望のメニューを手作りして楽しんでいただいたり、甘酒、果物等、用意させてもらい、楽しんでいただいています。	ミキサー食や刻み等、身体状況に合わせた対応をされ、食の説明をしながら、又食を促す声かけをし、楽しみとなる支援を心掛けている。力量によりお手拭きをたたんだり、下膳等してもらっている。個々の誕生日には希望のメニューでお祝いしている。行事食等も作られ、楽しんでもらい、食の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合った量を提供するようにいたしております。水分量も特に夏場には気を付け、透析をされている入居者様には、特に注意しています。お茶の進まない方などには、いろいろなものを試して飲んでいただけるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	リビングの洗面台で、一人ひとり職員が付き添い対応しています。自分でできる方には職員がその方に必要なところまでの介助をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間など、ポータブルを使われている方もいますが、入居者様により色々な対応をしています。声掛けをしたり、ベルで呼ばれた場合には、その都度トイレへの誘導をしています。	日中は個々のパターンに沿って声かけし、トイレでの排泄に努め、機能維持や生活習慣、気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。自立の方もいる。また、排便チェックも行い不穏にならない様取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターや、看護師の指示のもと、排泄パターンを理解して、下剤で調整しています。中には、おライブに出かけると排便に繋がる方もいるので、工夫をしながら、体を動かしてもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回、入浴していただいておりますが、希望者がおられる場合には、3回入浴されるときもあります。曜日を覚えてくださっている入居者様もおられ、その方の生活リズムになっている。体調の悪い場合や、入浴することが嫌な場合には、別の日に対応したりしています。	週2回、午後の対応となっている。湯温や順番、ボディソープの希望にも対応し、入浴が楽しみとなる様、柔軟な支援を心掛けている。常に状況を把握しタイミングを見ながら、個々に沿った支援を大切にされている。現時点では拒否の方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムを崩さないように対応しています。照明など、その人に合ったように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが入居者様の今飲んでる薬の目的や、副作用のこと等、頭に入っていないと思いますが、何かいつもと違うときにはすぐに気づいてくれており、病院の受診に繋がったり、往診時にドクターに報告、相談をしています。施設の看護師が、薬の管理をしてくれています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや、様々な行事、ドライブや、商店街への散歩、ノンアルコールビールや、甘酒等、入居者様の好きなものを用意したりして、楽しんでもらっています。実習生に勉強を教えてくれる入居者様もいます。(元、学校の先生)広報誌の直しも手伝ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員対応で正月参りに行ったり、その方がかよっていた小学校(廃校になっていたり...)にドライブに出かけたり、広島原爆ドームや、出雲大社などに里帰りされている方もいます。	地域行事や四季の外出、希望で近隣への買い物やドライブを兼ねて馴染の場所へ出かけたり、また、家族と外出される方もいる。初詣には自宅近くの神社にお参りしてもらったり、個別対応で希望に沿った対応をしている。玄関前やお庭が広く、そこを散歩されたり、玄関先で椅子を並べ、外気に触れる機会も持たれている。色々な場所に出かけ、気分転換や五感刺激、気晴らしの支援に取り組まれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の意向もありますが、自分で管理され買い物に行かれる入居者様もおられます。事務所でお預かりしている方もおり、買い物への付き添いもしています。皆で買い物に行くときには、施設のお金を使いコーヒーや、焼き鳥など、食べて帰ったりもしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出される方には、職員が住所などを書いて、コメントなどは、本人に書いてもらっています。携帯電話を持っておられる人も何名かおられ、友達や、家族とのやり取りをされておられる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、廊下、リビング等、他のグループホームよりは広く、移動などもしやすくなっている。天井も高く、圧迫感の無いつくりになっている。季節の行事なども行い、園外での行事も取り入れ、季節も感じてもらえるような工夫をしている。	玄関も広く、椅子も置かれ、季節が感じられる装飾品もある。廊下、リビングも広く、和風建築なので木のぬくもりが感じられ落ち着いた雰囲気である。暖炉もある。壁面には行事や日頃の様子等の写真も多く飾られ、利用者と共に作成した作品もある。不快な匂いや死角もなく、ソファも置かれ好きな場所で過ごせる。抑圧感も無く快適に過ごせる共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファもあり、テレビを見てくつろがれている方もいます。気の合う方と席を一緒にしており、工夫もしています。屋根付きの広い玄関もあり、春から秋にかけて、天気の良い時には、皆で歌を歌ったり、お茶を飲んだりして過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分から、こうしてくださいと言われる方には、壁にポスターを張ったり、居心地の良い空間づくりに努めています。必要なものがあるときには、家族様に許可を取り、スタッフが揃えたり、家族様に持ってきてもらったりしています。	タンス、収納ケース、加湿器やテレビ、また、カメラやラジオ等好みのものがたくさん持ち込まれている。好きな歌手のポスターを貼られたり、行事の時の写真、家族からの絵手紙等も飾られ、自宅の延長線上の環境づくりをされ、違和感なく過ごせる様工夫されている。カレンダーや時計もあり時の認識にも繋がられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすで生活をされている人も、自分の力で居室まで帰られている人もいます。廊下のスペースが広く、入居者様同士のすれ違いも危険がなくできています。歯医者にも歩いて通われている人もいます。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2／3くらいの				②家族の2／3くらいと
			③利用者の1／3くらいの				③家族の1／3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2／3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1／3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2／3くらいが			○	②職員の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③職員の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2／3くらいが				②利用者の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③利用者の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2／3くらいが			○	②家族等の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③家族等の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2／3くらいが				
			③利用者の1／3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グルーホーム 松花園

目標達成計画

作成日 令和 2 年 8 月 29 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	新たなスタッフも加わり、会社の理念を皆が共有し、実践に繋げる様にする。「優しい介護」を実践する。	スタッフ個人の常識を利用者や他のスタッフに押し付ける事なく、相手の立場に立ち、優しく丁寧な口調での対応を心掛ける。	個人面談や朝礼で話し合いの場を持つ。	1年間
2	15 36 46	認知症をスタッフ皆が理解し正しい対応を目指す。	理念にある最愛の人に最上級の親愛をこめて安らぎを提供できる様感情的にならず、常に優しい対応ができるように、色々な指導を行う。	個人面談や毎朝の朝礼等で時間を作り、スタッフとの話し合いの時間を設ける。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。